

# Vascular Street Journal


 特集

## 第3回 一般社団法人禁煙推進学術ネットワーク学術会議

### 関連セミナーの紹介

はじめに

「第3回禁煙推進学術ネットワーク学術会議」は、同時に関連セミナーを2つ開催しました。これは、医療職でない方々にとっても、理解しやすい話をさせていただき禁煙啓発活動を目的とするものです。まず、関連セミナーの一つ「第2回 生活習慣と未来医療カンファレンス」を紹介します。大阪国際がんセンターの田淵貴大先生にお話をお願いしました。座長は鹿児島大の大石充教授です。最初に言葉の定義(下記)を明確にします。

福岡大学 学長  
朔 啓二郎



田淵 貴大 先生

紙巻きタバコ： コンビニや駅、自販機で販売される従来からの箱に入ったタバコのこと。

新型タバコ： 電子タバコと加熱式タバコがある。電子タバコの場合、ニコチンが含まれたものは薬機法(旧薬事法)による規制対象になり日本国内では販売不可だが、海外から通販で手に入る。加熱式タバコはタバコの葉を使用しているため、たばこ事業法におけるタバコである。日本では加熱式タバコが急速に普及しており、すでに成人の10%以上が使用するようになっている。

#### 第2回 生活習慣と未来医療カンファレンス

##### 「ちょっと気になる禁煙の話」

座長：大石 充 先生 (鹿児島大学教授)

演者：地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンターがん対策センター 疫学統計部

田淵 貴大 先生

大阪国際がんセンターの田淵です。はじめに、COVID-19関連の話をさせていただいて、その後に新型タバコも絡めて、ウイズコロナ時代の禁煙の話をしていきます。

以前から、喫煙やニコチンによって免疫機能が低下することがわかっていました。新型タバコに変えてもニコチンはかなり含まれているので、その免疫機能の低下は防げません。非喫煙者と比べて喫煙者では、新型コロナウイルス感染症にかかった時の死亡や重症化のリスクが高いのは、当然そうだろうと予測していました。タバコを吸っているとMARSやインフルエンザ

第3回 禁煙推進学術ネットワーク学術総会 関連セミナー

#### 第2回 生活習慣と未来医療カンファレンス

2021年11月27日(土) 16:30~

福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡よりWEB配信

<16:30~16:50>

座長：鹿児島大学心臓血管・高血圧内科学 大石 充 先生

##### 「ちょっと気になる禁煙の話」

演者：地方独立行政法人 大阪府立病院機構  
大阪国際がんセンター  
がん対策センター 疫学統計部

田淵 貴大 先生

会議後、お弁当をお配りいたします。

後援：福岡大学医学部、NPO法人臨床応用科学

に感染するリスクが有意に高くなるし、死亡や重症化のリスクが有意に高くなるとわかっていました。当然、今回の新型コロナ感染症もそうでした。アメリカや中国・韓国のデータをまとめると、タバコを吸っていると約2倍重症化しやすいのです。新型コロナウイルス感染症の診療の手引きは、厚生労働省が主導して作っていき、日本人に問題を伝える上でも重要な情報のリソースになっています。喫煙していたら重症化するので、いま国民を挙げて新型コロナウイルス感染症を終息させようとしている中で「タバコ吸っていたらダメですよ」ということを、より強く言う必要があります。その診療の手引きの第4.1版(図1)を示します。2020年の12

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 診療の手引き 第4.1版	
表 2-1 重症化のリスク因子	
重症化のリスク因子	2020年 3月17日 第1版発行 2020年 5月18日 第2版発行 2020年 6月17日 第2.1版発行 2020年 7月17日 第2.2版発行 2020年 9月4日 第3版発行 2020年 12月4日 第4版発行 2020年 12月25日 第4.1版発行
<ul style="list-style-type: none"> <li>65歳以上の高齢者<sup>1)</sup></li> <li>悪性腫瘍<sup>2)</sup></li> <li>慢性閉塞性肺疾患 (COPD)<sup>3)</sup></li> <li>慢性腎臓病<sup>4)</sup></li> <li>2型糖尿病<sup>5)</sup></li> <li>高血圧<sup>6)</sup></li> <li>脂質異常症<sup>1)</sup></li> <li>肥満 (BMI 30以上)<sup>8)</sup></li> <li>喫煙<sup>5)</sup></li> <li>固形臓器移植後の免疫不全<sup>9)</sup></li> </ul>	Risk factors of critical & mortal COVID-19 cases: A systematic literature review and meta-analysis Zhong Z, et al. <i>Clinical and Applied Science</i> . 2020; 16(12): 1-10. DOI: 10.1007/s10162-020-00100-0

図 1

月25日によやく「喫煙」の項目が重症化のリスク因子に入りました。実は2020年の4月には、そのような論文が既に出ておりましたので、もっと早く重症化リスクに入っていたら、重症化させないために禁煙しましょうとより強く言えたはず。禁煙することでCOVID-19の重症化を防げるんですよ」と、皆さんに強調していただけたら幸いです。

他のリスクと比べてみましょう。「65歳以上の高齢者」であるということは、COVID-19で重症化するリスクです。喫煙することも、高齢であるということも同じようなリスク要因だとも言えるわけです。ここで重要な観点は、国民を挙げてCOVID-19問題を予防していこうと考えたときに、できる事は何かと考えると、高齢者を若返らせる事はできませんが、

喫煙者は禁煙できるのです。なので、できることをやろうという観点からすると、喫煙者の場合に禁煙するという取り組みはとても重要な視点ではないかと思えます。しかも、禁煙するとCOVID-19の重症化だけでなく、慢性閉塞性肺疾患(COPD)になるのも防ぐことができ、多くのガンも防ぐことができるのです。

さて、コロナ禍にあって、多くの会社が自粛している中であっても、タバコ会社は重症化のリスクファクターであるタバコの販売を促進しています。本当にひどいことだと思います。新型タバコが、COVID-19蔓延とともに、逆に推進されたりしているわけです。手前味噌で恐縮ですが、「新型タバコの本当のリスク」という本を紹介させてください。この本では新型タバコ問題に関するほとんど全ての観点について説明していますので、ぜひご覧いただきたいと思えます。

それでは、ここから新型タバコの問題に話を進めていきます。この20年間に、日本で新型タバコと呼ばれてもおかしくないようなものは実はたくさんありました(図2)。ガムタバコや嗅ぎタバコ、スナー



図 2

ス、これらの製品は新しいタバコ製品ですが、普及しませんでした。公衆衛生学的な視点で考えると、日本で普及した新型タバコ、加熱式タバコは、普及したからこそ大きな問題だと言えるわけです。例えばアメリカの銃の問題を考えてもらえれば良くなります。アメリカには銃が広く普及しまっ

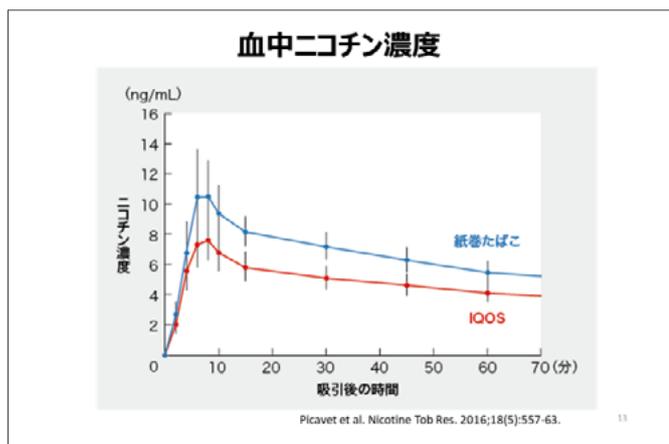


図 3

るが故に、毎日のように銃乱射事件が起きています。しかし、日本では銃が普及していないので、そういった事は起きていませんし、銃問題は相対的に日本では小さいことになるわけです。

日本の15歳から69歳で加熱式タバコを使っている人は近年急増しています。2015年の段階では0.2%が、2019年には11%が吸うようになっています。もうすでに多くの人が加熱式タバコを吸っていますので、そのリスクをしっかりと評価して伝えていかないといけない。血中ニコチン濃度が加熱式タバコ(IQOS)と紙巻きタバコで、そんなに変わらないのは、どちらでもニコチン依存症が維持されることを示しています(図3)。

私は、加熱式タバコは紙巻きタバコと同様の害を起こすと予想しています。その考えは私だけのものではなく、アメリカの専門家たちも同様に考えていると分かります。図4の3つ質問の1番下の質問をご覧

**専門家の意見 FDA諮問委員会の見解**

フィリップモリス社のIQOSのMRTP承認申請資料  
に対するFDA諮問委員会の見解  
(2018年1月24~25日)

完全に加熱式タバコに切り替えれば、有害性物質への暴露は減らすことができるか? (2.a)

**Yes - 8 No - 1 棄権 - 0**

その暴露の減少により、疾病の罹患率や致死率が減ると合理的に考えられるか? (2.b)

**Yes - 2 No - 5 棄権 - 1**

完全に加熱式タバコに切り替えればタバコ関連疾患のリスクを減らせるか? (1.a)

**Yes - 0 No - 8 棄権 - 1**

<https://www.fda.gov/downloads/AdvisoryCommittees/CommitteesMeetingMaterials/TobaccoProducts/ScientificAdvisoryCommittees/UCM592736.pdf>

図 4

ください。「完全に加熱式タバコに切り替えれば、タバコ関連疾患のリスクを減らせるか?」という質問に対して、9人の専門家のうち1人は棄権していますが、9人のうち8人は「ノー」、すなわち加熱式タバコに切り替えてもタバコで病気になるリスクは減らせないと答えています。

図5の写真はサッカーのロシアワールドカップの時に会場に掲げられていた禁煙マークで、この禁煙マークは紙巻きタバコも新型タバコもダメですよという禁煙マークです。禁煙というのは、紙巻きタバコをやめて加熱式タバコに変えることでなく、両方のタバコをやめることなんだという事をしっかり認識してほしいと思います。2016年のインターネット調査をした時に、1年間に禁煙しようとした133人で、どの方法で禁煙しようとしたかを聞いてみると、「自力」、これは従来からそうですけども、止められた人の中で一番多いのは「自力」でした。72%の人が自力でやめようとした。電子タバコと、加熱式タバコでやめようとしたという人が25.6%でした。それが2年後の2018年、「自力」で止めると答えた人は42%に減って、加熱式タバコ、電子タバコで止めると答えた人を合わせて64%いました。半分以上の人は加熱式タバコや電子タバコを使ってやめようとしたと答えています。加熱式タバコを使うということは禁煙するための方法ではないので、ある意味、誤った認識で禁煙が進んでいる。加熱式タバコを使うことが禁煙だと思っている人が非常にたくさんいるのです。加熱式タバコを吸っていると禁煙しにくくなるというエビデンスはまだ少ししか報告がありませんが、今後どんどんそういうエビデンスが出てくると思います(論文投稿中です)。加熱式タバコを吸っていると、12.7%の人が1年後に紙巻きタバコを吸うようになっていたというのは、イニシエーションの話です。加熱式タバコから手を出して、紙巻きタバコへと移ってしまうとのデータもあります。ある意味当たり前の結果ですが、そういったエビデンスをコツコツとでも出していかないといけないと思っています。皆さんと共に、禁煙を推進していくということが大切だと考え

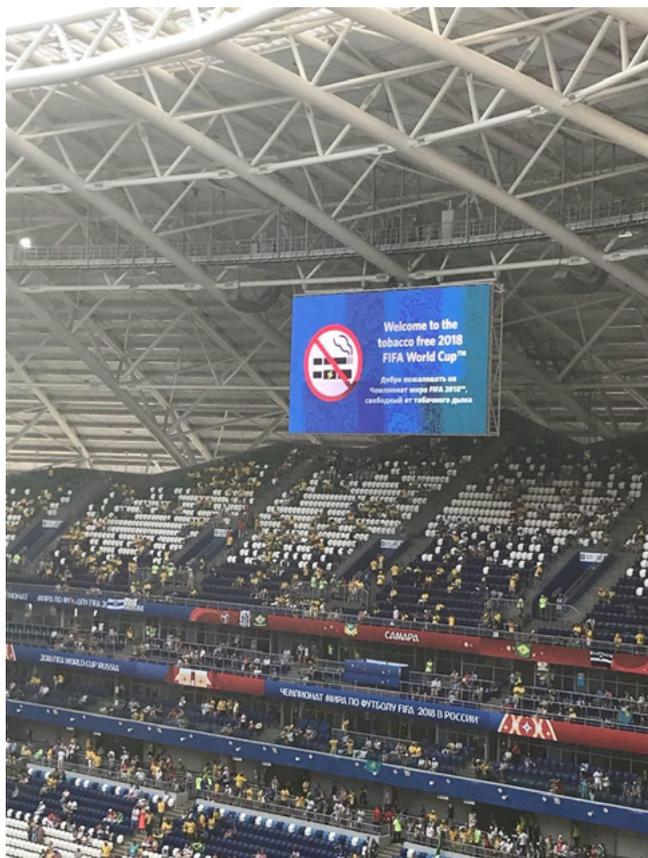


図 5

ています。禁煙推進学術ネットワークに参加されている学会の皆さんと連携する機会をいただき、感謝しています。

ほぼ全ての部位のガンがタバコを吸っていると増えます。脳卒中や心筋梗塞、糖尿病などの非常に多くの慢性疾患も喫煙で明らかに増える、つまり、ほぼすべての診療科にタバコで増える病気があるのです。すべての学会がタバコ問題を自分ごととして捉えて、禁煙に取り組む。その時に新型タバコ問題が邪魔をしています。従って、新型タバコ問題も含めてしっかり自分ごとにしていただきたい。タバコ問題に取り込むという

のは、人を大切にするといい我々の医療業界の philosophy からしても、ゆずれないところだと思います。

最近出した論文の結果を紹介しますが、現在病気を持っている人がどれだけ加熱式タバコを使っているのか調べました。慢性疾患をかかえている人は、病気があって少しでも自分の害を減らしたいと思っていますので、加熱式タバコに騙されやすい人たちです。それで実際に多くの人が加熱式タバコを吸っています。ここで見ると、高血圧や糖尿病、狭心症、心筋梗塞、脳卒中、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、ガンという病気を持っている人の多くの方が加熱式タバコを吸うようになっていて、そのほとんどの人は紙巻きタバコとの併用です。紙巻きタバコを吸っていると、害は大きいのは明らかですから、このデータからも加熱式タバコに手を出した時に、紙巻きタバコがやめられるわけじゃなくて、むしろやめにくくなる、そういった論文を今後出していく予定です。

タバコ会社は加熱式タバコのパンフレットに「紙巻きタバコも加熱式タバコもやめた方がいいです」と書いています。これはどういうことかと考えますと、訴えないでくださいね、ということです。タバコ会社はリスクがあると伝えたわけですから、それでも吸っているのはあなたですよ、という風に喫煙者のことを馬鹿にした対応をしているのです。我々はしっかりとメッセージを発信して、世の中の方がタバコ会社に騙されないようにしたいですね。タバコのリスクをなくすために、すべてのタバコをやめましょう、と訴えていきたいと思います。

どうも、ご清聴ありがとうございました。

### Prof. S. Miura's Commentary

新型タバコのなかで、一番普及している加熱式タバコの害が明らかになりつつあります。むしろ明確になってきたといったほうがよいかもかもしれません。様々な理由でタバコをやめようとならない人は、受動喫煙防止の観点からも問題ですね。タバコを吸っている人をみつけたら禁煙するようアドバイスしましょう。禁煙治療をすすめてみましょう。皆さんに禁煙の害を知らせ受動喫煙を防止をしましょう。もちろん加熱式タバコも禁止するような活動を心がけないといけません。